第２章　石狩管内・首都圏の大学生の意識調査

１　意識調査の概要

（１）調査内容

・石狩管内と首都圏の学生に対し、学生生活の満足度、コロナ禍での生活、就職先の希望、働き方への考え方、地元定着ニーズ、地元定着に向けて求めるサポート等を尋ねる意識調査を実施した。

（２）実施方法

・SNS ユーザーに対し回答者を募集し、ネット画面を通じ回答してもらった。

・上記では北海道出身者のサンプル数が少なくなることが予想されたため、北海道との間で就職支援に関する協定を結んでいる中央大学に依頼し、Ｗｅｂ画面を通じ回答してもらった。

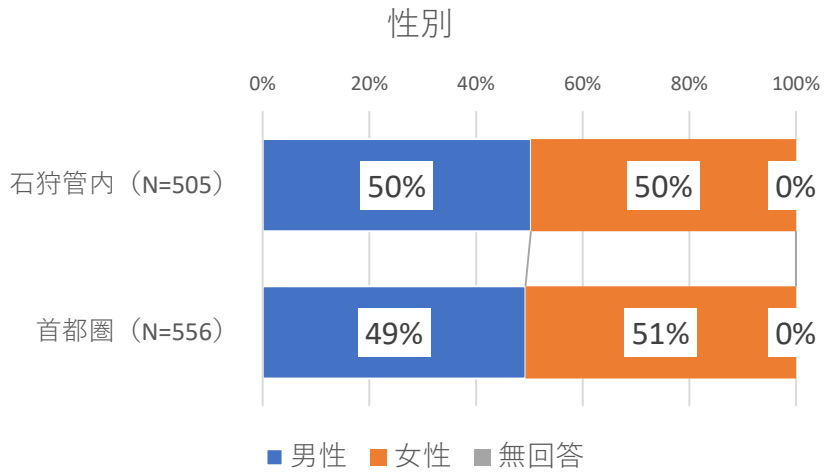
（３）回収状況

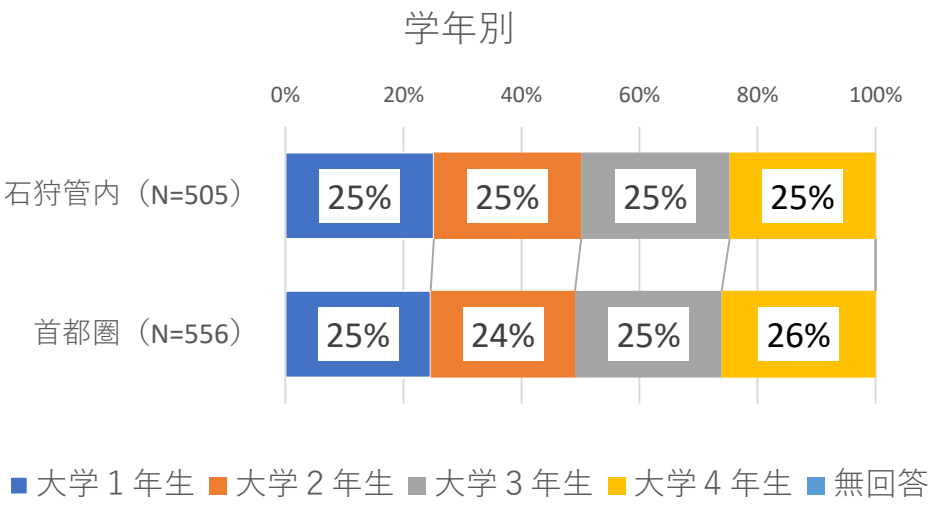
・石狩管内 505 名、首都圏 556 名より回答を得た。

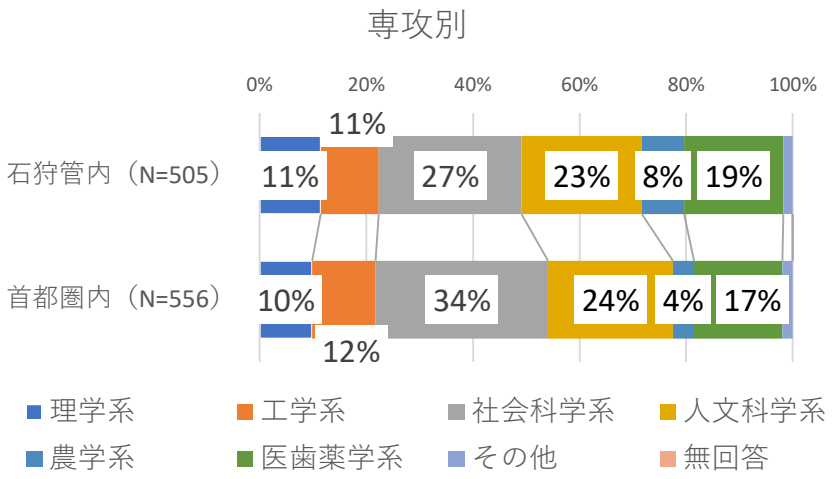
２　調査結果

（１）基本属性

・性別は概ね男女半々（約 50%ずつ）となっている。
・学年は 1～4 年で概ね均等（約 25%ずつ）となっている。
・専攻は社会科学系、人文科学系が多くなっている。



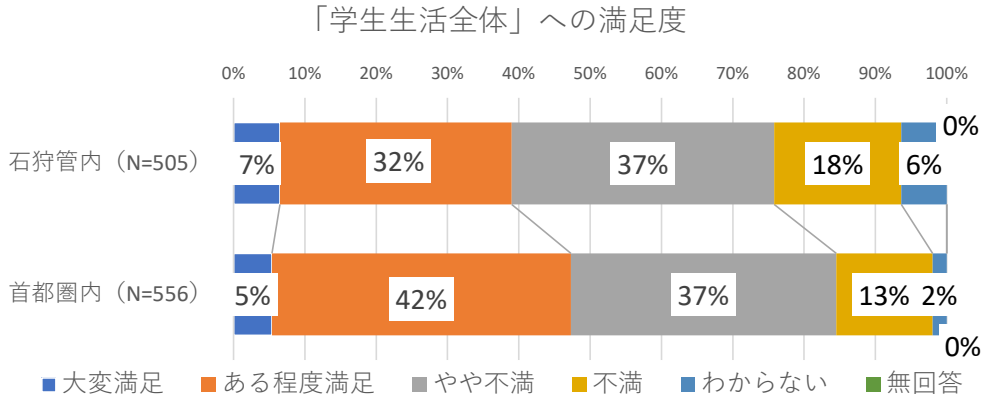

学年別
0%
20%
40%
60%
80%
100%
石狩管内（N=505）
25%
25%
25%
25%
首都圏（N=556）
25%
24%
25%
26%
大学１年生
大学２年生
大学３年生
大学４年生
無回答

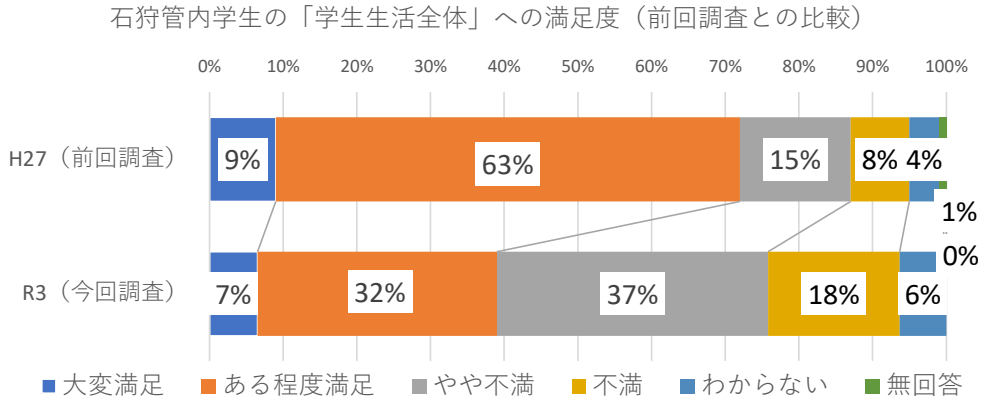

専攻別
0%
20%
40%
60%
80%
100%
石狩管内（N=505）
11%
11%
27%
23%
8%
19%
首都圏内（N=556）
10%
12%
34%
24%
4%
17%
理学系
工学系
社会科学系
人文科学系
農学系
医歯薬学系
その他
無回答

（２）学生生活への満足度

①「学生生活全体」への満足度

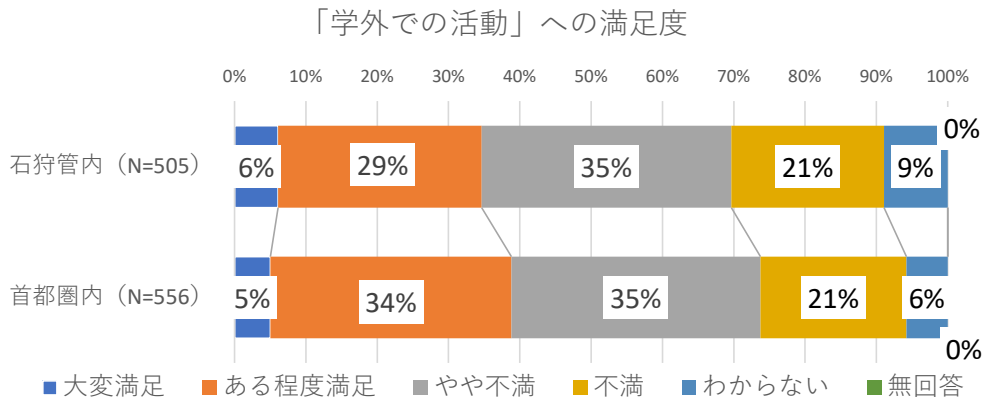
・「大変満足」、「ある程度満足」を合計すると、石狩管内の大学生は 39%、首都圏の大学生は 47%となっており、首都圏の大学生の方が、満足度がやや高くなっている。
・石狩管内の大学生の学生生活全体の満足度を前回調査（平成 27 年度）と比較すると、「大変満足」、「ある程度満足」を合計が前回調査では 72%であるのに対し、本調査は 39%と大きく低下している。





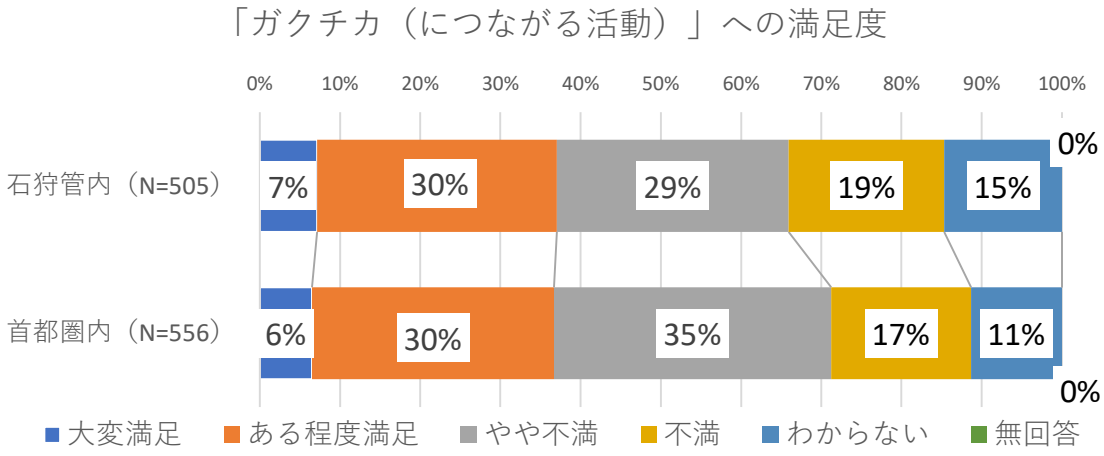
②「学外での活動」の満足度

・「大変満足」、「ある程度満足」を合計すると、石狩管内の大学生は 35%、首都圏の大学生は 39%となっている。学生生活全体と同様低い水準となっている。



③「ガクチカ（につながる活動）」への満足度

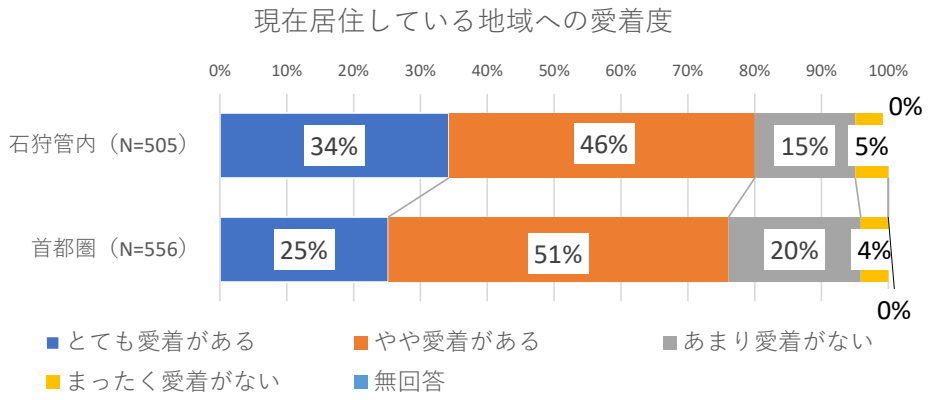
・ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）につながる活動の実施状況は、「大変満足」、「ある程度満足」を合計すると、石狩管内の大学生は 37%、首都圏の大学生は 36%となっている。学生生活全体と同様低い水準となっている。



（３）地域への愛着度

①現在居住している地域への愛着度

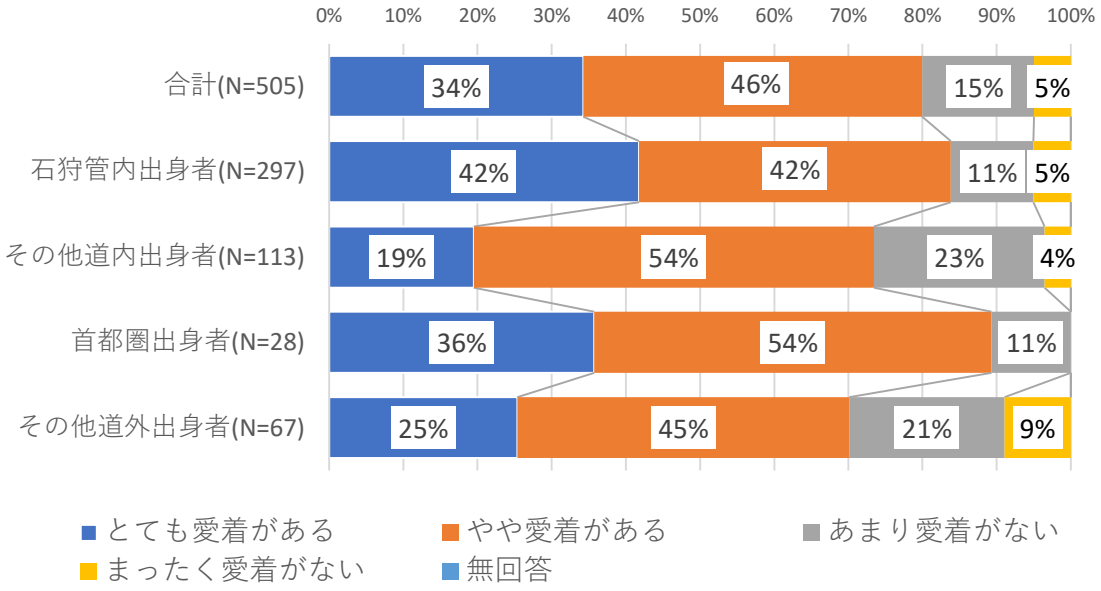
・「とても愛着がある」、「やや愛着がある」を合計すると、石狩管内の大学生は 80%、首都圏の大学生は 76%となっており、石狩管内の大学生の満足度の方がやや高くなっている。



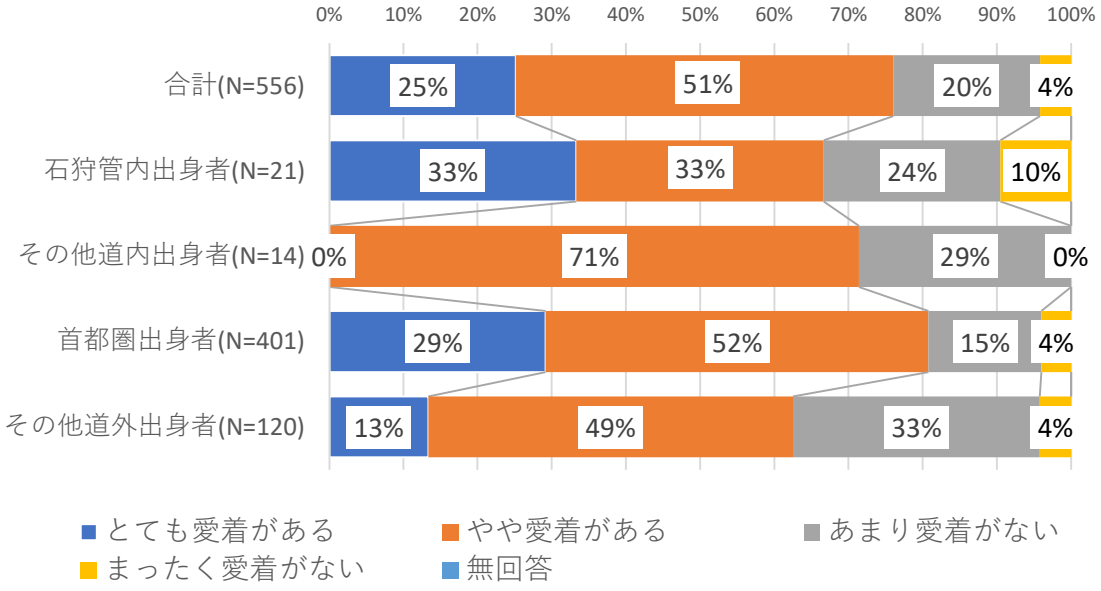
・これを出身地域別（高校卒業時の居住地：石狩管内、その他道内、首都圏、その他道外）にみると、石狩管内出身者の石狩管内への愛着度（とても愛着があるとやや愛着があるの合計）は 84%、その他道内出身者は 73%、首都圏出身者 90%、その他道外出身者 70%となっている。首都圏出身者のサンプル数は少ないが、石狩管内への高い愛着度を示している。

・同様に首都圏の出身地域別の首都圏への愛着度をみると、石狩管内出身者 66%、その他道内 71%、首都圏 81%、その他道外 62%となっている。

石狩管内の大学生　出身地域×石狩管内への愛着度



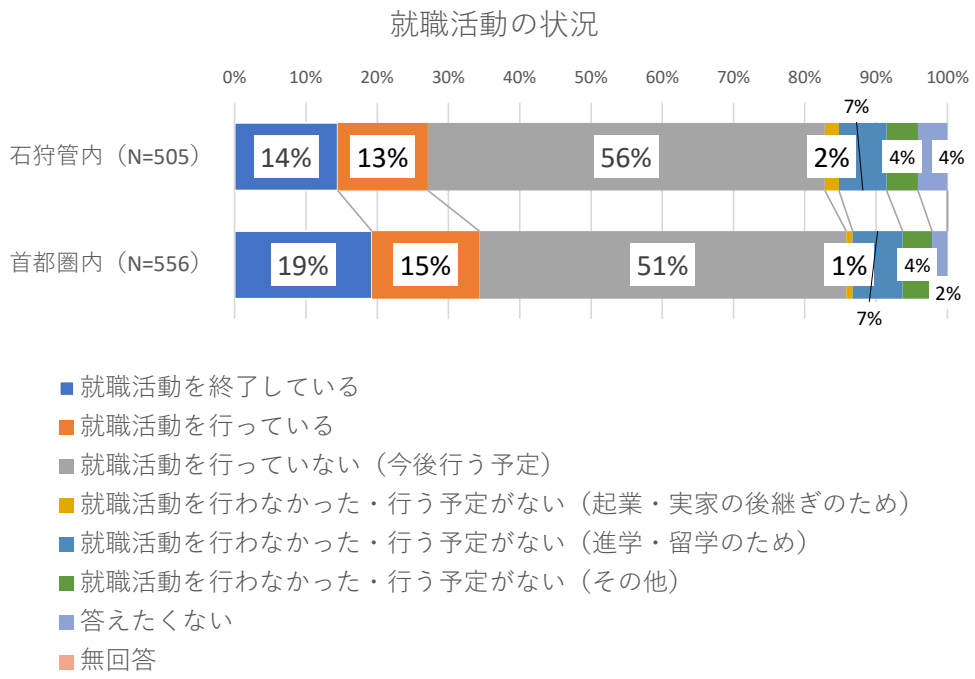
首都圏の大学生　出身地域×首都圏への愛着度



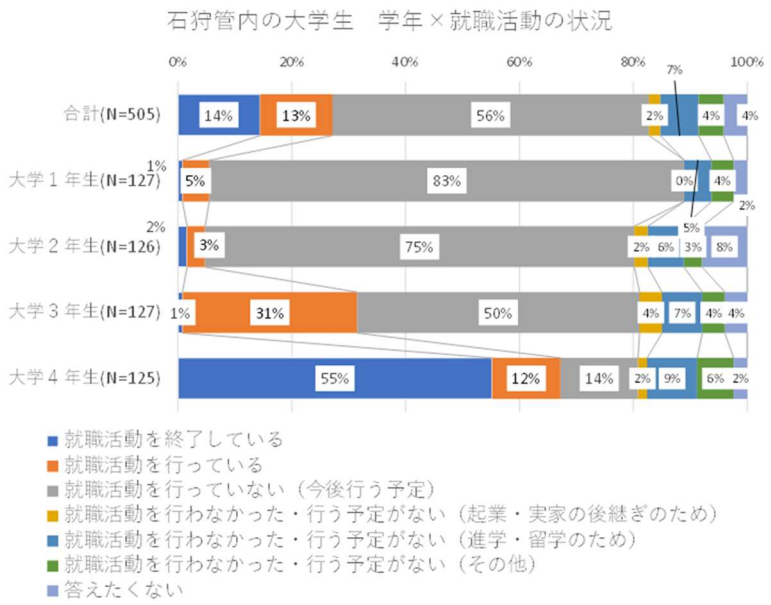
（４）就職活動の状況等

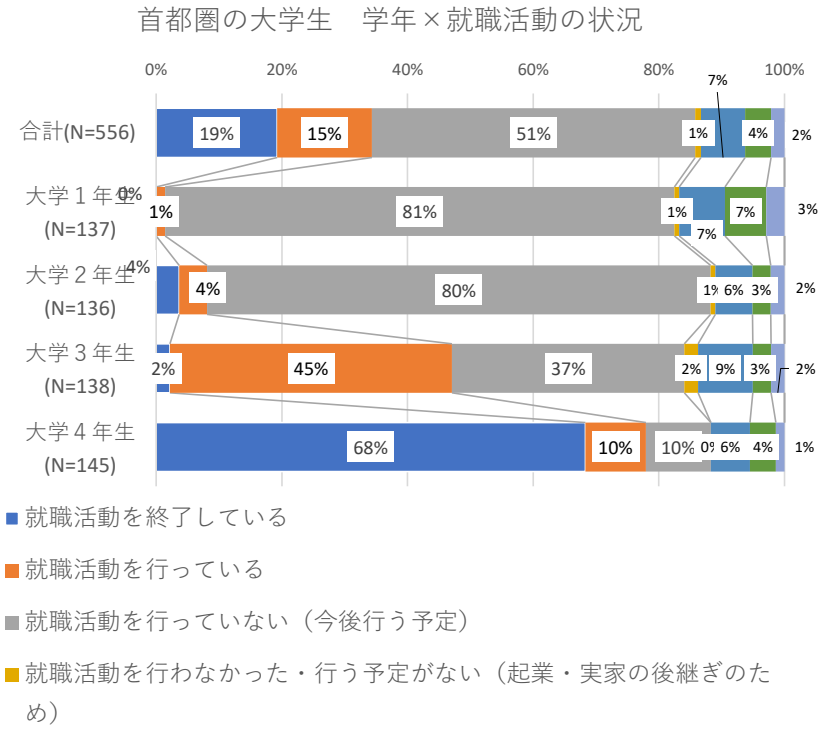
①就職活動の状況

・「就職活動を終了している」は石狩管内で 14%、首都圏で 19%となっている。
・「就職活動を行っている」は石狩管内で 13%、首都圏で 15%となっている。



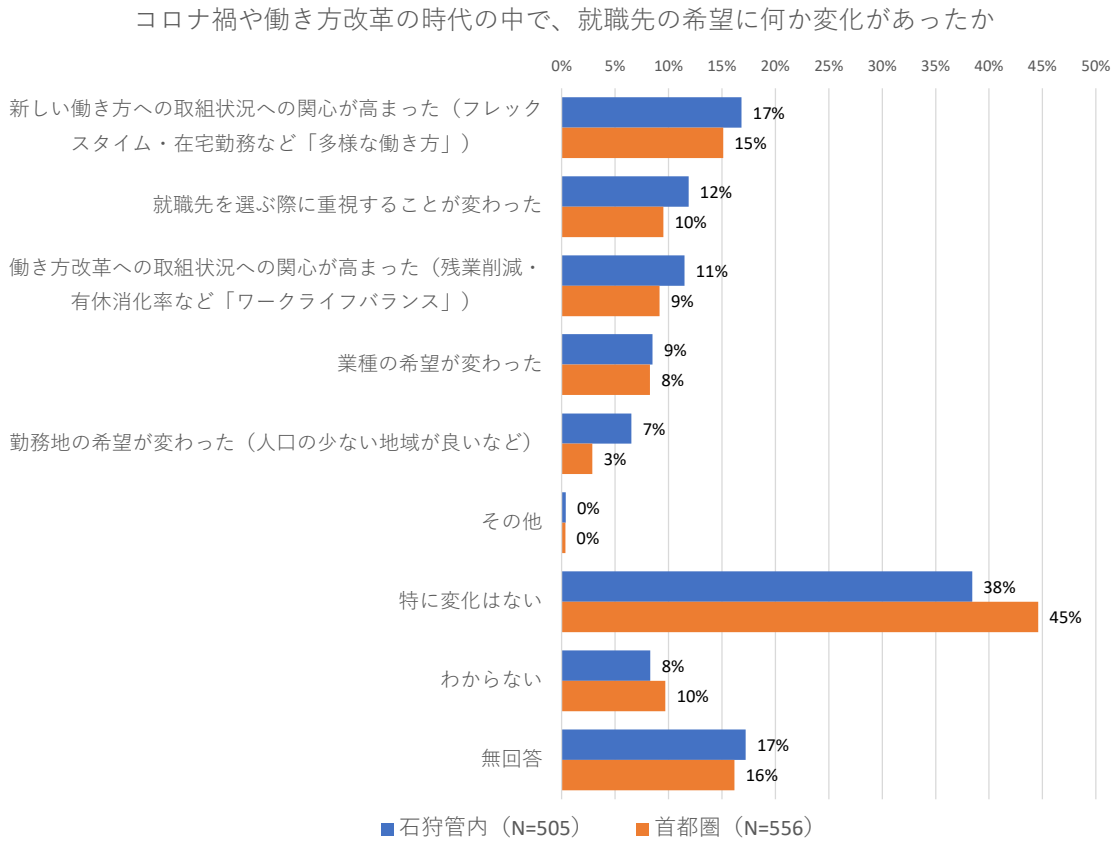
・これを学年別にみると、石狩管内の大学 4 年生は 55%が就職活動終了、12%が就職活動中と回答している。一方、首都圏の大学 4 年生は 68%が就職活動終了、10%が就職活動中と回答している。
・石狩管内の大学 3 年生は 1%が就職活動終了、31%が就職活動中と回答している。一方、首都圏の大学 3 年生は 2%が就職活動終了、45%が就職活動中と回答している。


石狩管内の大学生　学年×就職活動の状況
0%
20%
40%
60%
80%
100%
合計(N=505)
大学１年生(N=127)
大学２年生(N=126)
大学３年生(N=127)
大学４年生(N=125)
就職活動を終了している
就職活動を行っている
就職活動を行っていない（今後行う予定）
就職活動を行わなかった・行う予定がない（起業・実家の後継ぎのため）
就職活動を行わなかった・行う予定がない（進学・留学のため）
就職活動を行わなかった・行う予定がない（その他）
答えたくない

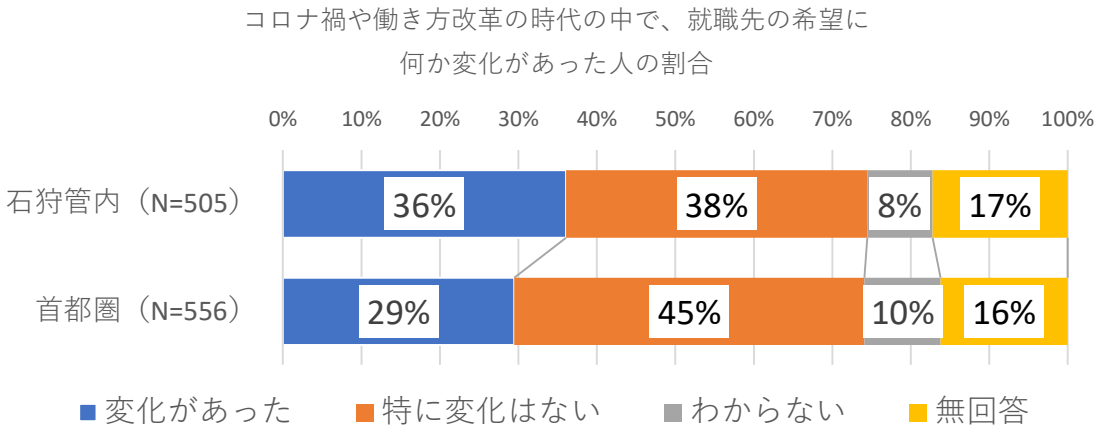

首都圏の大学生　学年×就職活動の状況
0%
20%
40%
60%
80%
100%
合計(N=556)
大学１年生(N=137)
大学２年生(N=136)
大学３年生(N=138)
大学４年生(N=145)
就職活動を終了している
就職活動を行っている
就職活動を行っていない（今後行う予定）
就職活動を行わなかった・行う予定がない（起業・実家の後継ぎのため）

②コロナ禍や働き方改革の時代の中で、就職先の希望に何か変化があったか。（複数回答）

・石狩管内の大学生は「多様な働き方」が 17%、以下「就職先を選ぶ際に重視することが変わった」（12%）、「ワーク・ライフ・バランス」（11%）の順となっている。
・首都圏の大学生は「多様な働き方」が 15%、以下「就職先を選ぶ際に重視することが変わった」（10%）、「ワーク・ライフ・バランス」（9%）の順となっており、石狩管内の大学生との間に大きな差異は見られない。
・「特に変化はない」とする回答は、石狩管内の大学生が 38%、首都圏の大学生が 45%となっており、首都圏の大学生の方がやや多くなっている。

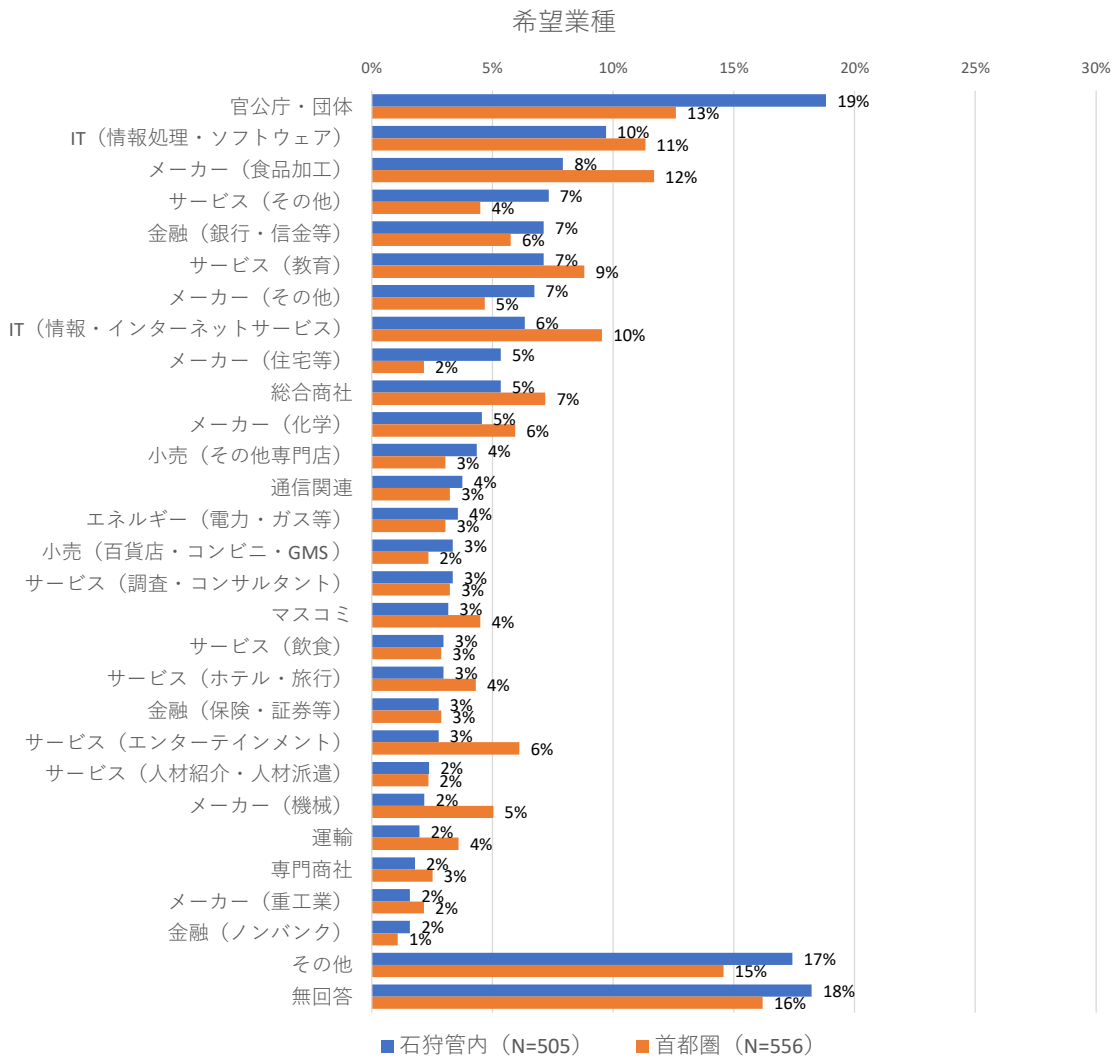


・上記は複数回答のため、「（何かしらの）変化があった」（サンプル全体から「特に変化はない」「わからない」「無回答」を除いた人数）がサンプル全体に占める割合をみると、石狩管内の大学生で 36%、首都圏の大学生で 29%となっている。



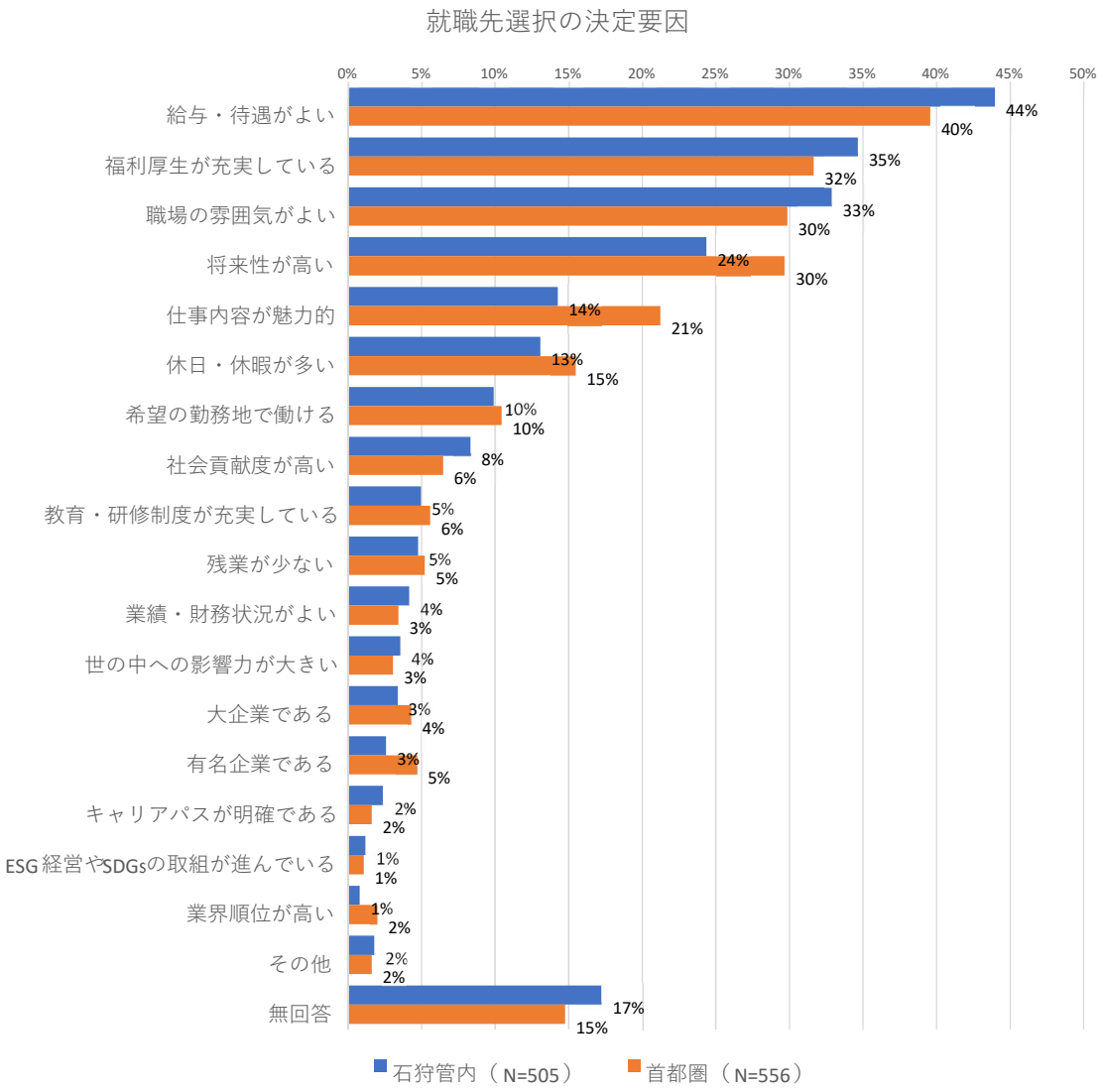
③希望業種（複数回答）

・石狩管内の大学生は、「官公庁・団体」（19%）、「IT（情報処理・ソフトウェア）」（10%）、「メーカー（食品加工）」（8%）の順となっている。
・首都圏の大学生は、「官公庁・団体」（13%）、「メーカー（食品加工）」（12%）、「IT（情報処理・ソフトウェア）」（11%）の順となっている。
・石狩管内の大学生と首都圏の大学生を比較すると、「官公庁・団体」は石狩管内の大学生が高く、「IT（情報・インターネットサービス）」や「メーカー（食品加工）」「サービス（エンターテインメント）」「メーカー（機械）」等は首都圏の大学生の方が高くなっている。



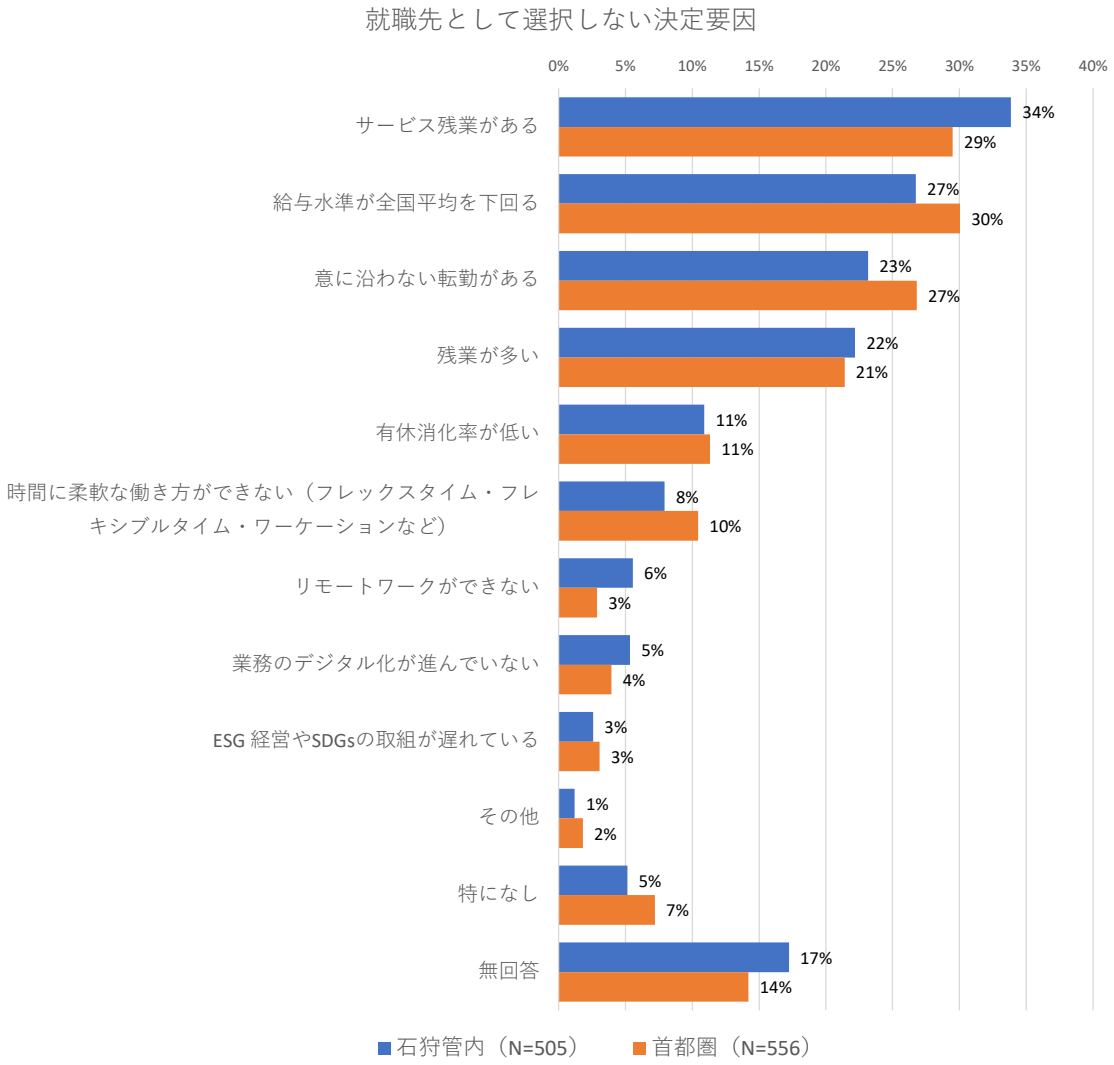
④就職先選択の決定要因（複数回答）

・石狩管内の大学生は、「給与・待遇がよい」（44%）、「福利厚生が充実している」（35%）、「職場の雰囲気がよい」（33%）の順となっている。
・首都圏の大学生は、「給与・待遇がよい」（40%）、「福利厚生が充実している」（32%）、「職場の雰囲気がよい」「将来性が高い」（ともに 30%）の順となっている。
・石狩管内の大学生と首都圏の大学生を比較すると、「給与・待遇がよい」は石狩管内の大学生の方が多く、「将来性が高い」「仕事内容が魅力的」は首都圏の大学生の方が多くなっている。



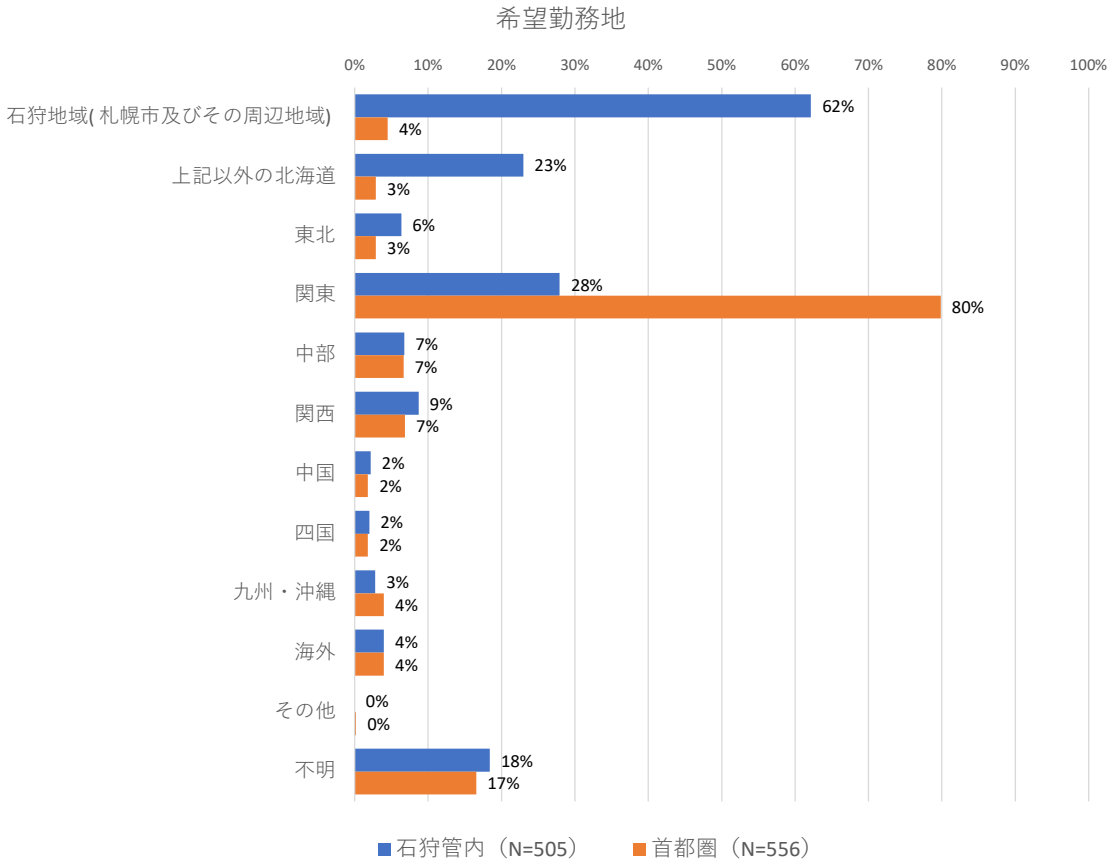
⑤就職先として選択しない決定要因（複数回答）

・石狩管内の大学生は、「サービス残業がある」（34%）、「給与水準が全国平均を下回る」（27%）、「意に沿わない転勤がある」（23%）の順となっている。
・首都圏の大学生は、「給与水準が全国平均を下回る」（30%）、「サービス残業がある」（29%）、「意に沿わない転勤がある」（27%）の順となっている。
・石狩管内の大学生と首都圏の大学生を比較すると、水準にはやや差はみられるものの、傾向に大きな差はない。



⑥希望勤務地（複数回答）

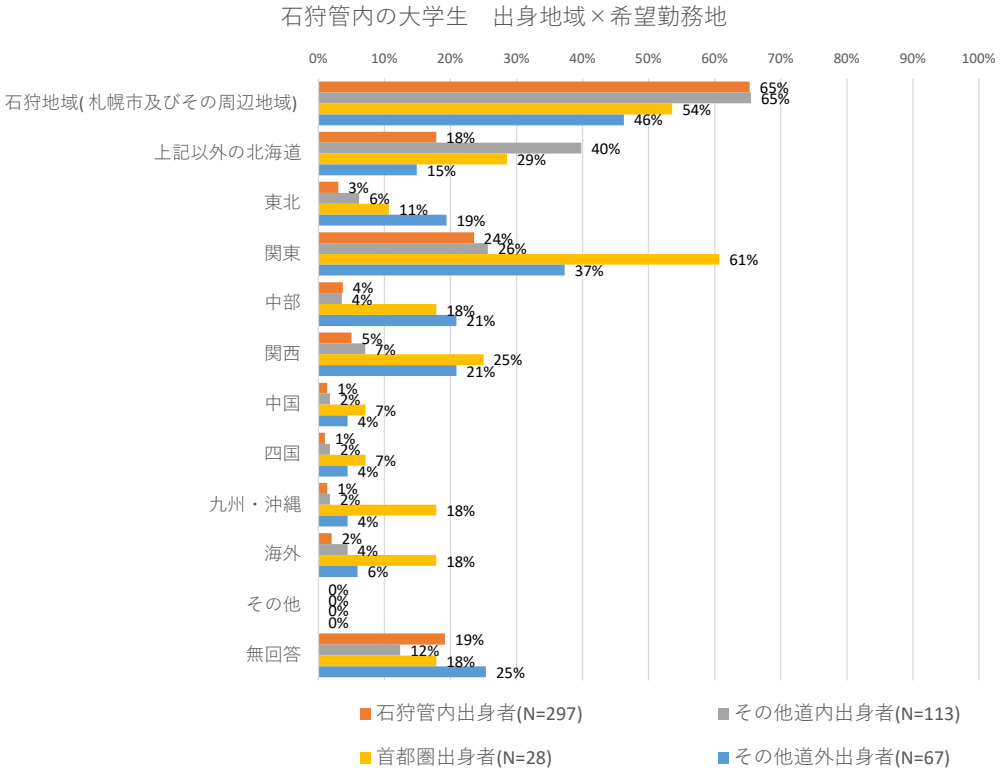
・石狩管内の大学生は、「石狩管内」が 62%で最も多く、以下、「関東」（28%）、「石狩管内以外の北海道」（23%）が次いでいる。
・首都圏の大学生は、「関東」が 80%で最も多く、以下「中部」、「関西」（ともに 7%）が次いでいる。

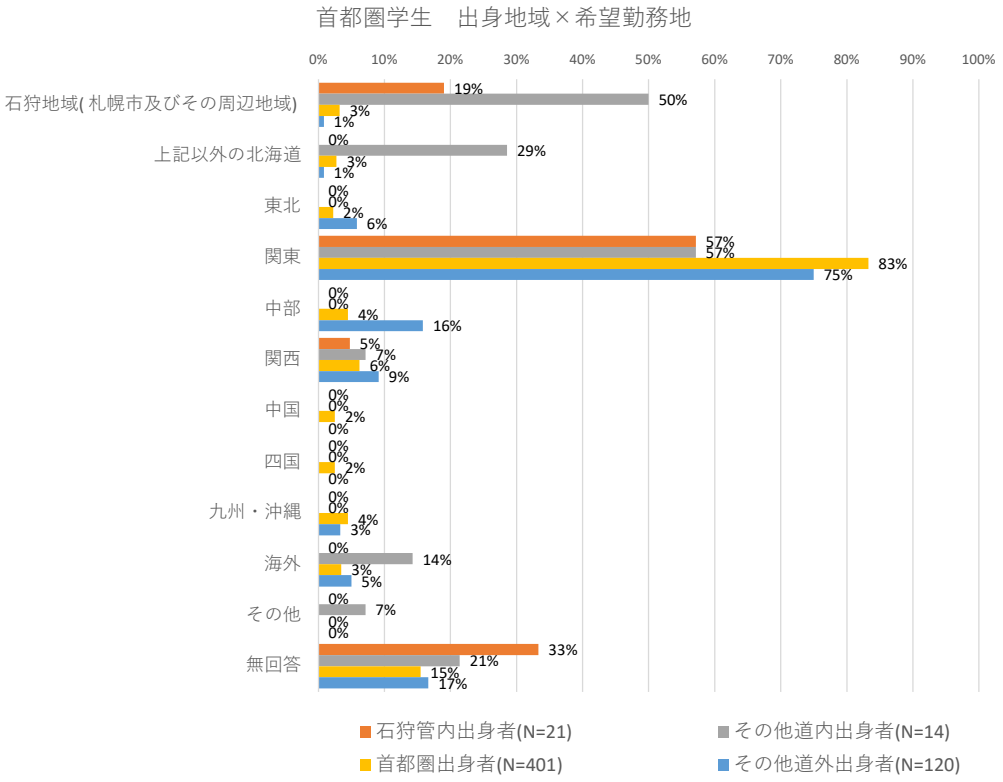


・これを出身地域別にみると、石狩管内の大学生のうち、石狩管内出身者の 65%、その他道内出身者の 65%、首都圏出身者の 54%、その他道外出身者の 46%が石狩管内での就職を希望している。また、首都圏出身者の 61%が関東圏での就職を希望しており、石狩管内での就職の希望する割合（54%）を上回る。

・同様に首都圏の大学生についてみると、石狩管内出身者の 19%、その他道内出身者の 50%、首都圏出身者の 3%、その他道外出身者の 1%が石狩地域（札幌市及びその周辺地域）での就職を希望している。また、首都圏の大学の石狩管内出身者の 57%が関東圏での就職を希望している。

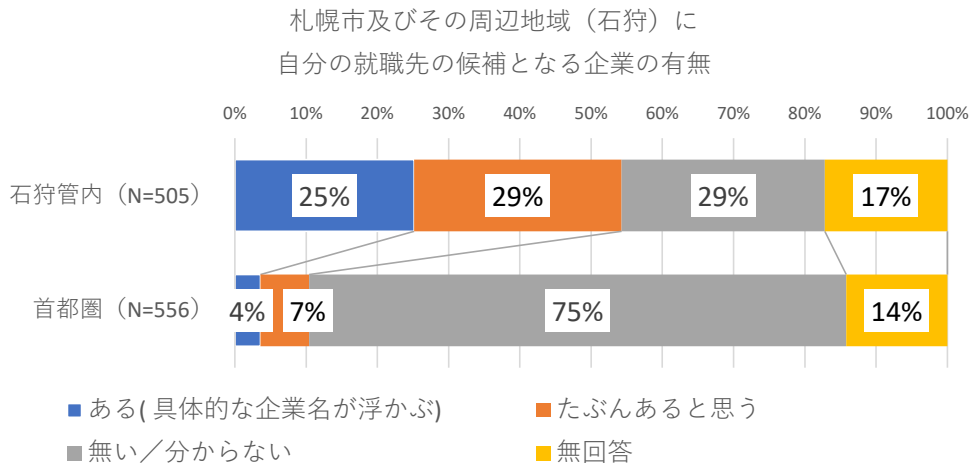
※石狩地域は具体的な構成市町村を示さず、札幌及びその周辺地域と表現している





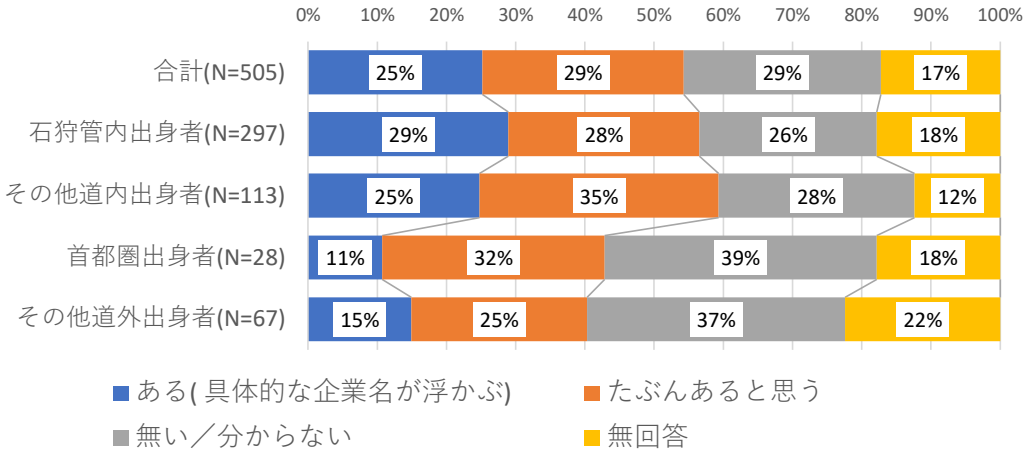
⑦札幌市及びその周辺地域（≒石狩地域）に自分の就職先の候補となる企業の有無

・「ある」と「たぶんあると思う」の合計は、石狩管内の大学生が 54%、首都圏の大学生が 11%となっている。

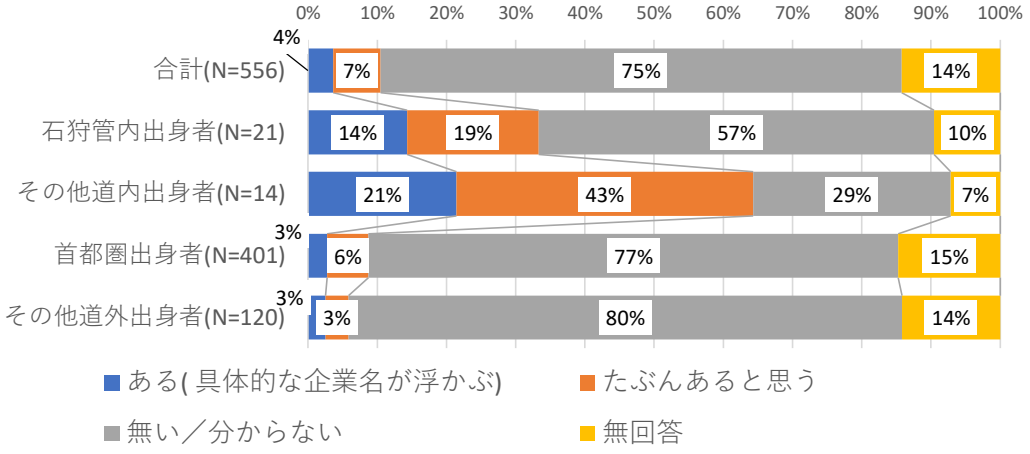


・これを出身地域別にみると、石狩管内の大学生における「ある」と「たぶんあると思う」の合計は、石狩管内出身者が 57%、その他道内出身者が 60%、首都圏出身者が 43%、その他道外出身者が 40%となっている。
・同様に首都圏の大学生における「ある」と「たぶんあると思う」の合計は、石狩管内出身者が 33%、その他道内出身者が 64%、首都圏出身者が 9%、その他道外出身者が 6%となっている。

札幌市及びその周辺地域（石狩管内）に
自分の就職先の候補となる企業の有無
石狩管内学生×出身地域別

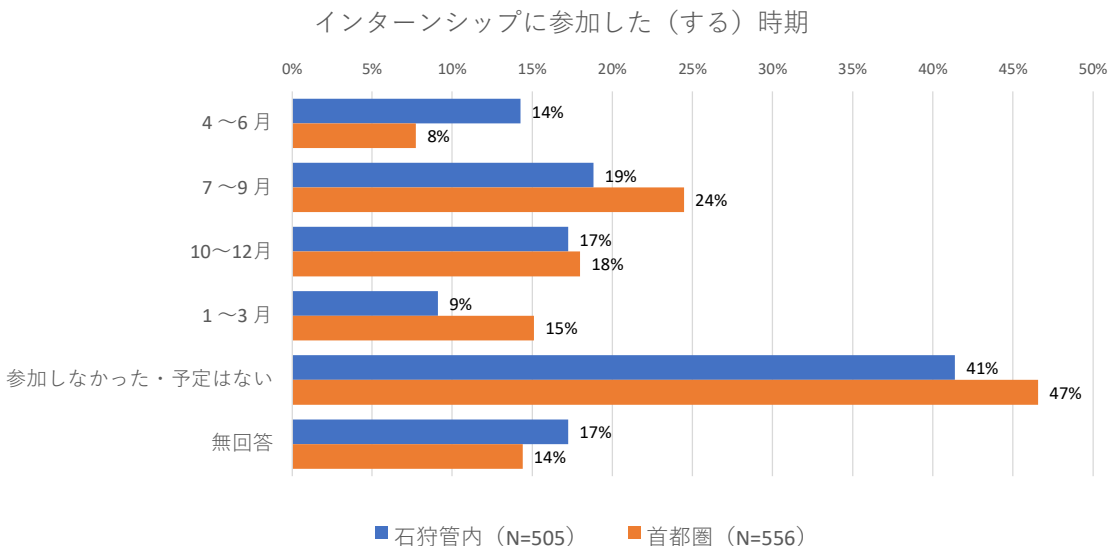


札幌市及びその周辺地域（石狩管内）に
自分の就職先の候補となる企業の有無
首都圏学生　出身地域別



⑧インターンシップに参加した（する）の時期

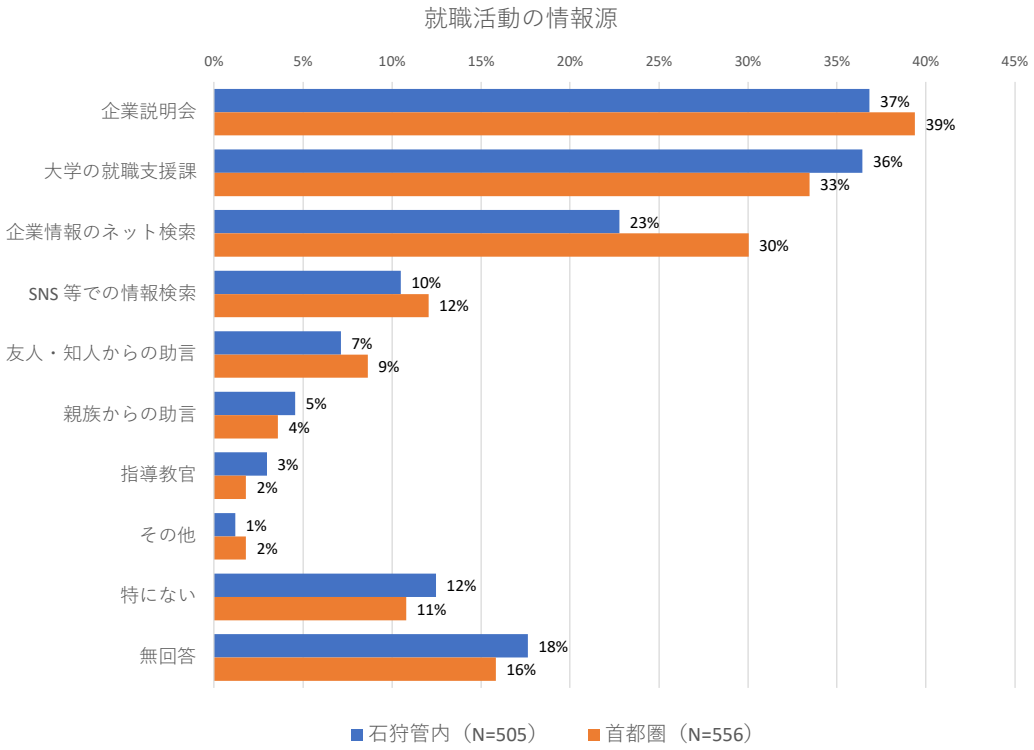
・石狩管内の大学生、首都圏の大学生ともに「7～9 月」が最も多くなっている。



⑨就職活動の情報源（複数回答）

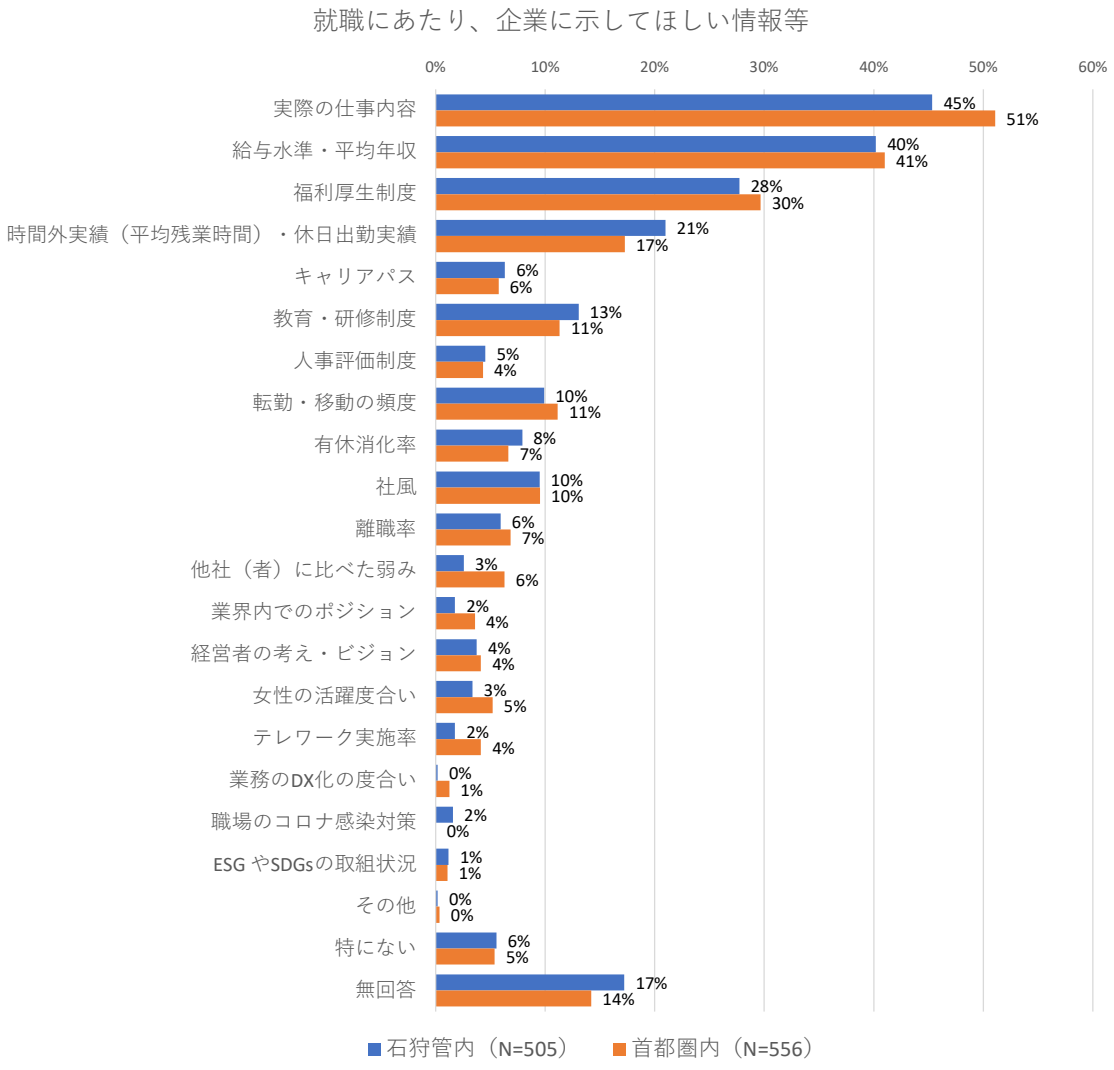
・石狩管内の大学生、首都圏の大学生ともに「企業説明会」、「大学の就職支援課」、「企業情報のネット検索」の順となっている。

・「企業情報のネット検索」について、首都圏の大学生（30%）と石狩管内の大学生（23%）に差がみられる。



⑩就職にあたり、企業に示してほしい情報等（複数回答）

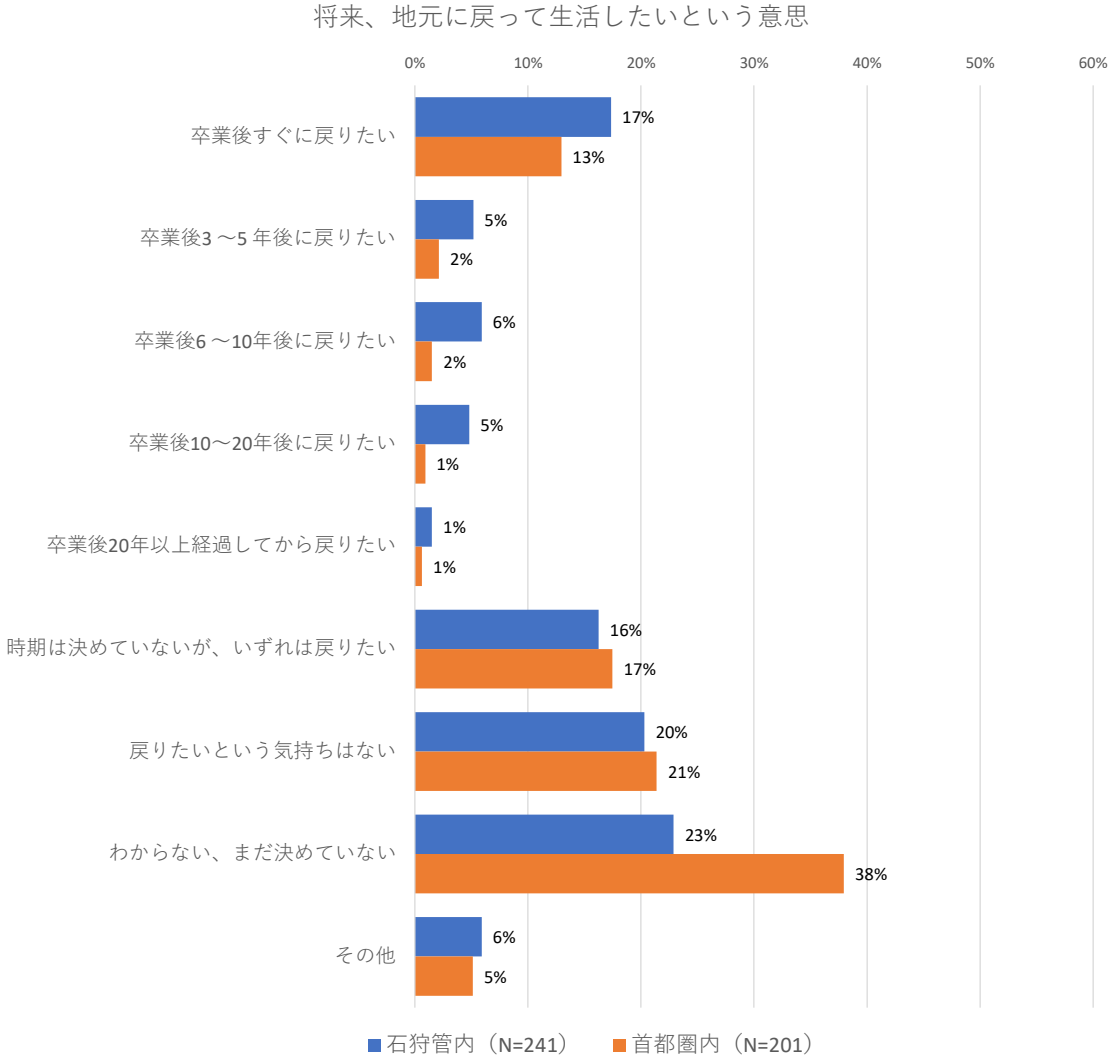
・石狩管内の大学生、首都圏の大学生ともに「実際の仕事内容」、「給与水準・平均年収」、「福利厚生制度」の順となっている。
・石狩管内の大学生と首都圏の大学生を比較すると、「実際の仕事内容」は首都圏の大学生がやや上回っている。一方、「時間外実績（平均残業時間）・休日出勤実績」は石狩管内の大学生がやや上回っている。



（５）将来、地元に戻って生活したいという意思

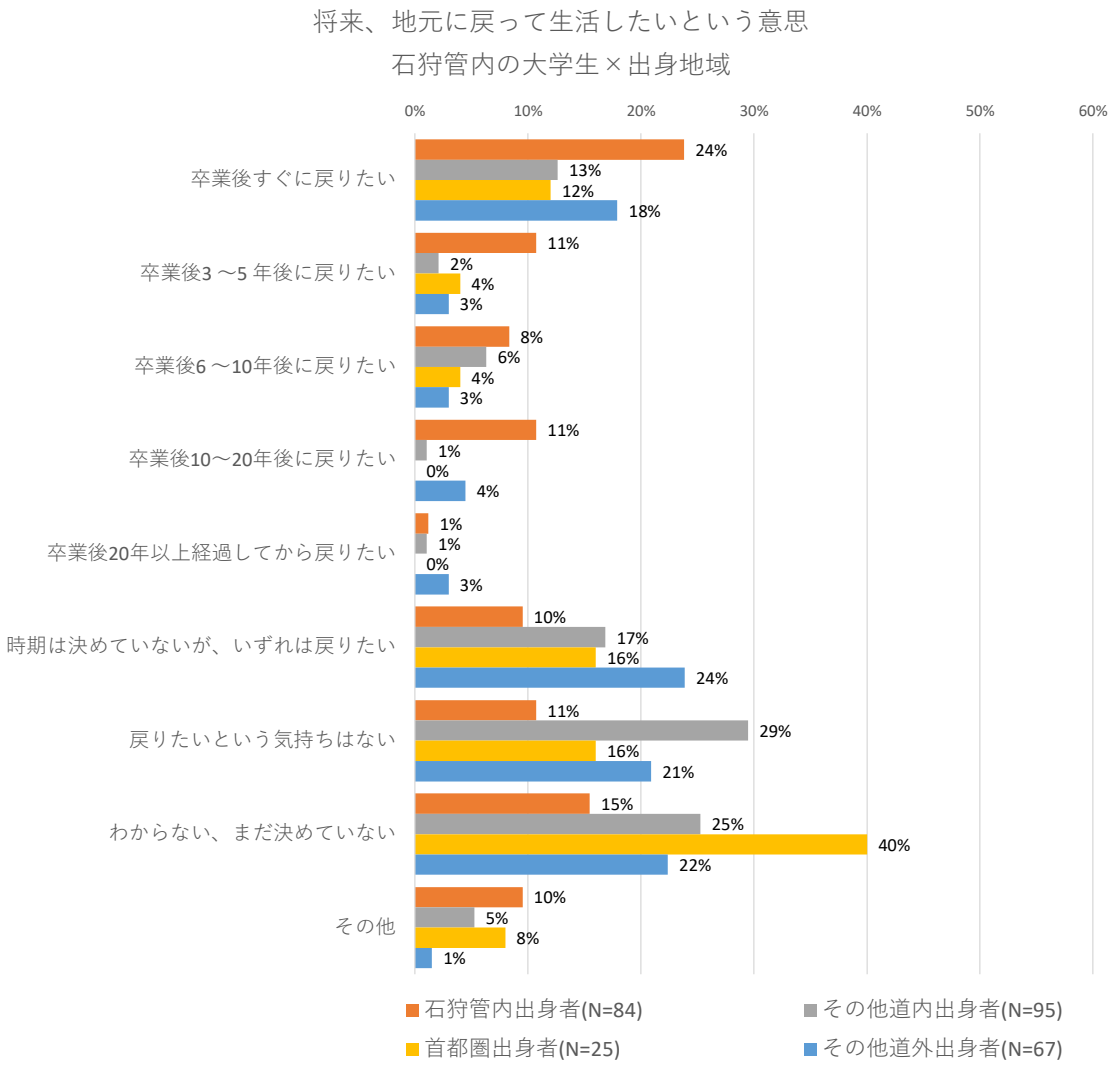
・「地元に戻って生活したい」（「卒業後すぐ戻りたい」～「時期を決めていないが、いずれは戻りたい」の合計）は、石狩管内の大学生が 50%、首都圏の大学生が 36%となっている。
・石狩管内の大学生は、17%が「卒業後すぐ戻りたい」と回答している。

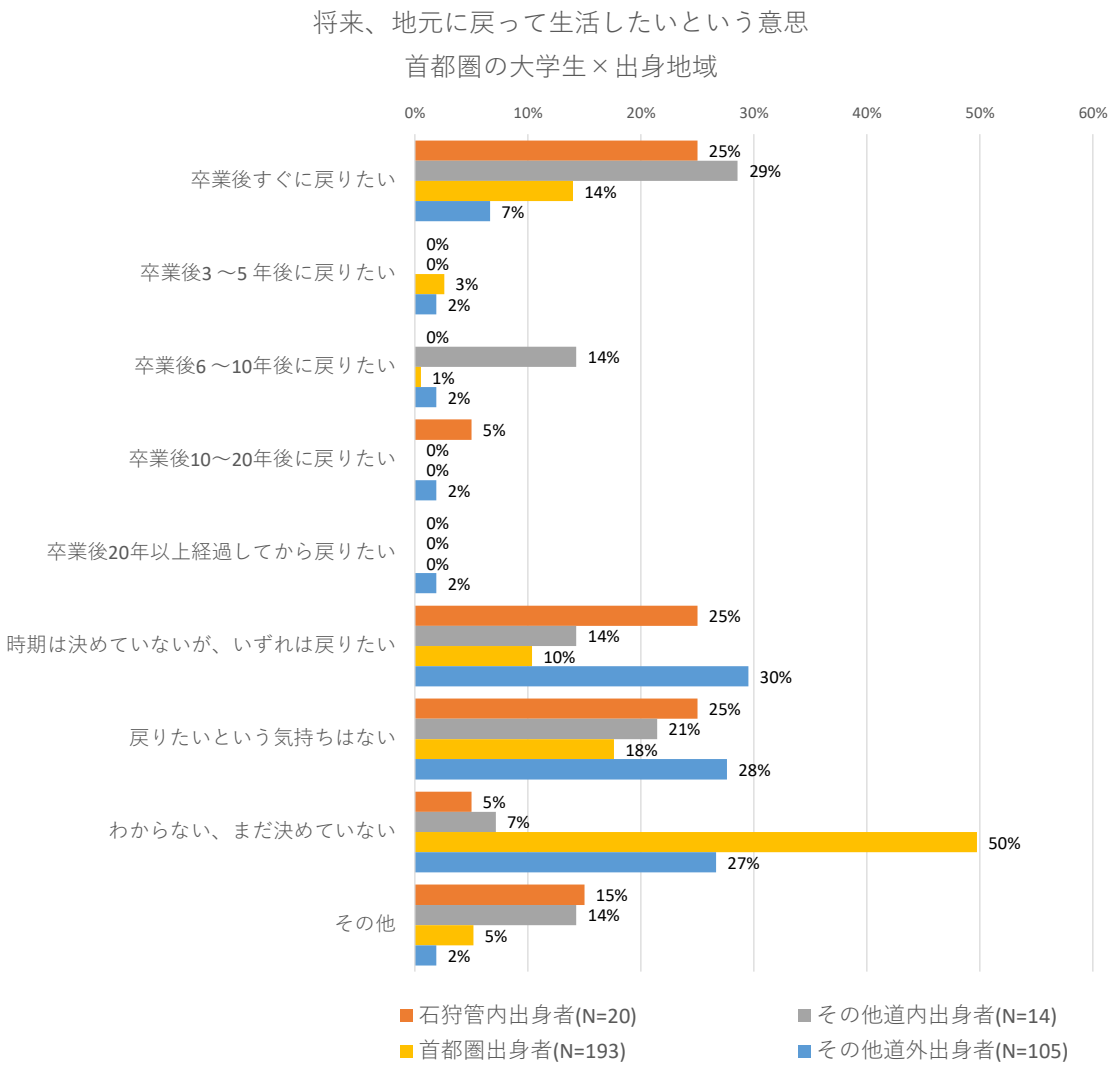
※上記集計は、無回答を除いたサンプル数から計測した。
※石狩管内在住者が石狩管内に戻りたいと回答しているケースもみられる。高校卒業までの居住地移動、大学入学による石狩管内での移動なども考えられるため、回答があったケースを全て表示した。

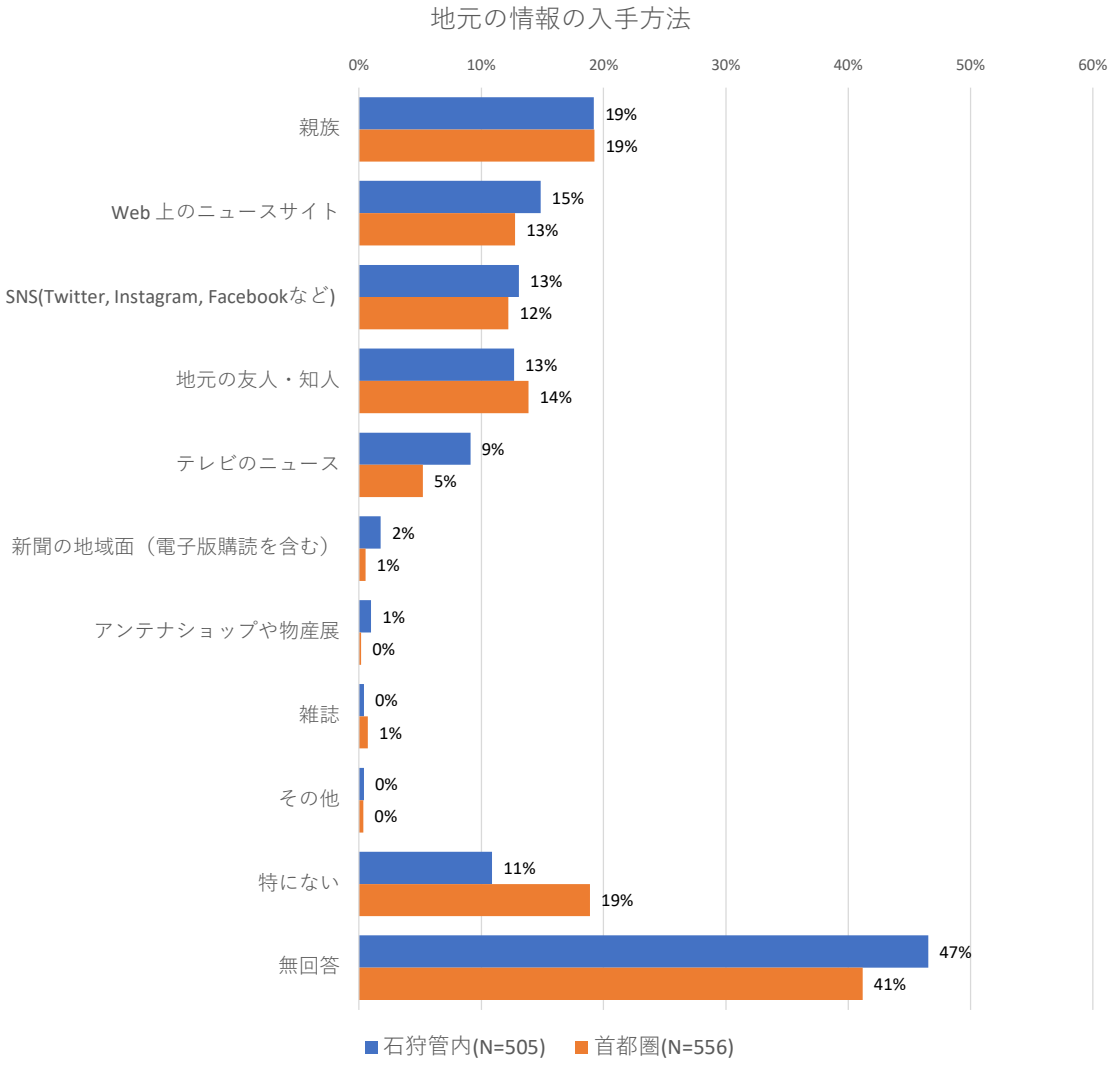


・これを出身地域別にみると、石狩管内の大学生のうち、石狩管内出身者の 65%、その他道外出身者の 40%、首都圏の 36%、その他道外の 55%が「戻りたい」（時期未定の者を含む）と回答している。
・首都圏の大学生のうち、石狩管内出身者の 55%、その他道外出身者の 57%、首都圏の 27%、その他道外の 45%が「戻りたい」（時期未定の者を含む）と回答している。

※上記集計は、無回答を除いたサンプル数から集計した。
※石狩管内出身者が石狩管内に戻りたいと回答しているケースもみられる。高校卒業までの居住地移動、大学入学による石狩管内での移動なども考えられるため、回答があったケースを全て表示した。




将来、地元に戻って生活したいという意思
首都圏の大学生×出身地域
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
卒業後すぐに戻りたい
25%
29%
14%
7%
卒業後3 ～5 年後に戻りたい
0%
0%
3%
2%
卒業後6 ～10年後に戻りたい
0%
14%
1%
2%
卒業後10～20年後に戻りたい
5%
0%
0%
2%
卒業後20年以上経過してから戻りたい
0%
0%
0%
2%
時期は決めていないが、いずれは戻りたい
25%
14%
10%
30%
戻りたいという気持ちはない
25%
21%
18%
28%
わからない、まだ決めていない
5%
7%
50%
27%
その他
15%
14%
5%
2%
石狩管内出身者(N=20)
その他道内出身者(N=14)
首都圏出身者(N=193)
その他道外出身者(N=105)

（６）地元情報の入手方法（複数回答）

・石狩管内の大学生は「親族」（19%）、「Web 上のニュースサイト」（15%）、「SNS（Twitter, Instagram, Facebook など）」、「地元の友人・知人」（ともに 13%）の順となっている。
・首都圏の大学生は「親族」（19%）、「地元の友人・知人」（14%）、「Web 上のニュースサイト」（13%）の順となっている。